現代俳句の窓

中島　修之輔

魚にも目覚めのありて青時雨　　山田真砂年
若葉して空のせせらぎ聴きゐたり

「稲」九月号　「幾たびも」より

一句目、魚が目覚めると同時に、雨に濡れた樹の青葉から溜まったしずくが水面にぱらぱらとこぼれ落ちてきたという。魚に睡眠や目覚めがあるかどうか知らないが、いかにもありそうな鮮やかな情景描写である。

二句目、若葉した樹々を見上げると、春のおぼろ雲が川のせせらぎのように流れるその音が聞こえるようだ。

「稲」は故鍵和田柚子氏の「未来図」の後継誌であり、作者はその主宰。平易で清新な生活詠である。